登壇

和傘の新商品を開発　西堀耕太郎・日吉屋社長

使うシーンや機能を想定した提案が大事

100年以上続く和傘メーカーの日吉屋5代目を継いだ西堀耕太郎さん。京都で唯一の和傘メーカーとなる厳しい環境にあって、照明器具やインテリアなど、異業種との協業でさまざまな商品開発に取り組んでいる。

◇

——きっかけは。

何か新しいことをしたいと考えて、傘を用いた照明器具をインテリアトレンドショーに出展しました。その時は商売には直結しませんでしたが、多くの方に見ていただき、さまざまな意見を頂きました。その中で、使うシーンを想定した物作りの重要性に気付きました。またそうした声を、物作りに反映させることが大事なんだと気付いたんです。その後も改良を繰り返して、06年に発表したのが、竹と和紙で作った、開閉できるランプシェードの「古都里」（ことり）です。

——異業種と協業は。

古都里もそうですが、使用シーンや機能を追求する中で、必要な素材や技術が違ってきます。そうした場合、まず発想を形にしていろんな方に見てもらいます。それに対して意見や提案をいただけたり、つながりができたりします。そこからまた、新しい可能性が生まれるんです。こうした動きを繰り返し、どんどん広げていきたいです。今考えているものでは、傘を半分にした扇状のパーテーションや、LEDを用いた照明など。インテリア、ファッションなど、提案の余地はまだあると考えています。

——今後について。

今年は〝和傘270年ぶりのモデルチェンジ〟と題して、モダンなデザインと実用性を備えた新しい和傘「シナル」を発売します。3月下旬から高島屋横浜店などで販売を開始します。

現在、和の文化や和柄などが注目されているのは、懐かしさや環境に配慮する観点、いい物を大切に使い続けたいといった消費者のマインドが反映されていると思う。現代では傘は消耗品的な扱いを受ける場面が多いですが、元々は直して使い続けるものだった。和傘も1000年以上残ってきたもので、洗練されたかっこ良さもあります。そうした良さを残しつつ、どうしたら現代のシーンで使えるかを考え、提案していきたいです。

和　ジャパンムーブ

メーカー、卸の今夏ゆかた

百貨店へ〝上質〟を提案

各社、同質化対策に力

メーカー・卸の今夏向けゆかたの新作発表会が開かれているが、中旬には東京地区で開催されほぼ全体の概要が出揃った。市場をリードする百貨店売り場に向けて上質、格上の新作ゆかたが提案された。

百貨店を後押し

昨年、ゆかた市場が、アパレルや雑貨店のショップやネットにまで広がった結果、百貨店の売り場では例年に比べると、一部を除き逆に苦戦を強いられた。原因はブランドの同質化や販促不足、上質さに欠ける販売のやり方などが指摘されている。市場の広がりの中で、百貨店が本来の存在価値を発揮し切れ無かった。その反省から、提案内容もさまざまな角度から百貨店のパワーアップを後押しする内容になっている。

基本は上質、本格、品格などのキーワードが示すように、百貨店顧客の特性をとらえた商品開発、販促支援、売り場演出提案となっている。

市田は「ゆかたの品格」をテーマに打ち出した。「キーワードは大人の女、高質感、品位、優雅、クラシカル」とする。荒川では「お祭りゆかたとぜいたくゆかたのダブルスタンダードに二分される」と見る。新装大橋では「お祭りや花火の雑踏の中ではなく、予約席のような別格の場所に似合うきちっと品良く、着崩さないゆかたスタイルが基本。ゆかた本来の楽しく涼しげなコーディネートに回帰させた」としている。オンワード樫山は「全体が上質志向の中でブランドごとの個性が明確になるような物づくりをした。上質は大前提だが、売り場にヤングもカップルで訪れて欲しい。3年前のような賑やかな売り場の再現の後押しをしたい。ヤングブランドの充実にも努めている」と強調。

物づくりに個性

こうした狙いを背景にした物づくりには各社の個性が出ている。新装大橋は帯に力点を置き、西陣や博多の正絹細幅帯を伝統の技術を生かしつつ現代的センスを加味させる手法で開発。ゆかただけでなく、袷にも着られる。また、商品ではデート用（男が好むゆかた）と友達とのお出かけ用（自分が好むゆかた）2タイプを対比させつつ、20代、30代、40代に分けて提案。このほか遊び心満載の妖怪シリーズも登場させた。荒川は既存のブランドのパワーアップをめざし、2ブランドで著名スタイリストらとの協働で物づくりした商品を提案。市田は色の復活をテーマにピンク、バイオレット、イエロー、グリーンなどのさえた色をポイントカラ

ている。

歳代対象

レガンス

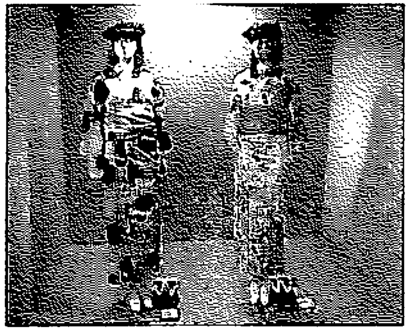
ンドを立

ワード探

絞り込ん

させてい

で2年目



新装大橋のデートの時の20代向けゆかた

Pinky&Dianne

市田「ピンキー&ダイアン」

荒川「古今」の石田節子さんとの協働商品

オンワード樫山「染橘香」

系図　板場友禅の

染め

伝統

小紋の意匠構想を語る稲垣社長

「小紋は非常に面白い」

——小紋の染め加工、板場友禅の稲垣智司社長はこの道55年間の草分け的存在だが、小紋の物づくりに対する思い、

常に深いもの

年川京友禅の

修業し「板場

はすべて手作

品は手作業で

きない独特の

現される。独

はひたすら独

模索に邁進し

和装不振の

手NCの店頭

紋がヤングに

華すがた総会

ツカモ

長）の関

和すがた

保備・牛

13回総会

かれた。

トコーポ

川健次社

（竹田恒

（古結俊

併経過に

から（合

あった時

合併

格